

令和6年6月立山町議会定例会一般質問・質疑通告概要

(令和6年6月13日)

○ 一般質問・質疑順番

1番	伊	東	幸	一	議員
2番	後	藤	智	文	議員
3番	澤	井	峰	子	議員
4番	平	井	久	秋	議員
5番	松	倉	勝	実	議員
6番	広	島	秀	一	議員
7番	髪	口	清	隆	議員
8番	堀	田		努	議員

<一般質問>

1番 伊 東 幸 一 議員

1 大災害への備えについて

昨年夏の豪雨や能登半島地震を受け再び起こりえる豪雨災害、地震災害、洪水被害対策、災害の教訓や今後の備え、地域の防災力向上を問う。

2 災害復旧の進捗について

- (1) 新設の土木統括監は、土木行政に係る政策及び企画立案への参画、並びに各種施策の推進に関して各部局の横断的な調整及び統括を行う。どのように取り組むのか、新統括監としての抱負とあわせて問う。
- (2) 昨年の6月28日と7月12日～13日にかけての豪雨によって、東谷地区を中心に多数の被害を受けた。国の災害査定を受け、順次、災害復旧工事を発注し、工事が始まったところだが、公共土木施設、農地・農業用施設並びに林道の発注状況と復旧復興に向けた全体のスケジュールを問う。

3 白岩川における河川復旧及び整備事業について

白岩川水害が発生したことを踏まえ、白岩川水系においても防災対策を進める必要がある。

- (1) 浚渫を行い、可能な限り流下能力を向上させる。
- (2) 河川整備事業により河川改修を実施。

- (3) 重要水防箇所、和合橋から新藤塚橋の区間、延長約 550 メートルの川幅拡幅により洪水被害の防止を図る改修スケジュール、藤塚橋撤去等を問う。

4 白岩川ダムの管理について

昨年の梅雨前線豪雨災害における白岩川ダムの被災は例年の約 350 年分の流木、計画堆砂容量の約 23 年分。ダムにより流木や土砂を捕捉、洪水の軽減、下流河川での土砂や流木による被害の軽減にも貢献している、白岩川ダムの効果である。

- (1) 23 年分の堆積土砂をダムから搬出等、災害復旧事業の進捗状況を問う。
- (2) 白岩川ダム建設以来初の緊急放流、令和 5 年の記録的な豪雨時の状況を踏まえて、大雨に備えた関係機関への通知や住民の周知のあり方、水防体制の見直し、緊急時の早め早めの住民への情報提供等、各課題に対する具体的な取り組みを問う。
- (3) 設置後 50 年経過に伴うダム機能の耐震及び安全性等を問う。

2 番 後 藤 智 文 議員

1 交通安全について

コンビニ誘致によって、買い物難民が緩和され、待望の本屋も開設された。一方で、東側通路が開放されたことによって通り抜けが多くなり、通行人や通学児童が危険な目に遭うのではないかと町民から心配の声も挙がっている。北側道路に 2 つの出入り口があることを踏まえ、一度は危険ということで閉鎖された通路について、今一度、開放の可否を検討されてはどうか。

2 町中心部の活性化について

- (1) 2 年前から町中心部の活性化事業の一環として、ホテルの誘致に取り組まれている。その可能性の調査がされているが、その結果はどうだったのか。
- (2) 町民の中には、ホテルの実現性において現実味がないのではないかと。また、町中心部の活性化に役立つのかどうか疑問視する声もある。どの程度寄与すると考えられているか。
- (3) 町中心部の活性化を図るとすれば、空き家を利用したゲストハウスの開設や飲食店の開店に力を入れてはどうか。

3 富山地鉄立山線について

3 月 29 日付北日本新聞において、富山地鉄の存続に対して協議会を立ち上げ、今年度中に方向性を出すと報道された。

- (1) 富山県地域交通戦略には、「地域交通サービスは公共サービスであり、自治体・県民の役割を、事業者への側面支援から、自らの地域に対する『投資』『参画』へと舵を切ることが必要。」

と明記されている。町を南北に走る地鉄を残すことは町の存続にかかわるものである。『投資』・『参画』に対して覚悟が問われると思うがどう取り組むのか。

- (2) 上下分離方式、みなし上下分離方式、別の事業者への経営移管の3つの案が示されている。町としてどの方式を選ぶべきなのか決断しなければならないが、どう考えるか。

4 入善町の新庁舎について

5月27日入善町の新庁舎がオープンした。

- (1) 昨年12月議会で、行政視察で新庁舎について学んだことを6点質問したところ、「視察していないので見解は差し控える」との残念な答弁だった。今回、入善町の新庁舎の竣工式に参加された町長は、どんな感想を持たれたか。今後の参考のために良いと思われる点を挙げていただきたい。
- (2) 5月27日は開庁式が行われ、職員およそ130人を前に笹島町長が「利便性を最優先にワンフロアサービスを実現した。町民の役に立つ場、役場として町民の意見を聞き入れる努力に取り組んでほしい」と訓示した。町民に寄り添う姿勢を示したと思われるが、同じ町長としてどう受け止められたか。
- (3) 各課の課長席がカウンター側に配置されている。管理職が町民ニーズをじかに把握し、迅速な対応の先頭に立つ試みである。この点についてどう評価するか。

5 高校生の医療費について

高校生までの医療費無料化は2022年10月から取り組まれている。現在は償還払いになっており、現物給付、いわゆる窓口無料化が望まれている。子育て支援の一環として現物給付にできるよう関係自治体とも協議し、努力してほしいと思うがどうか。

6 熱中症対策として

- (1) 移動式エアコン設置を

昨年9月議会で質問したところ、「検討したい」という答弁でした。本来は体育館にエアコン設置が望ましいが、難しいということであり、児童・生徒たちの健康のため、避難所対策のため、いろいろな場面で活躍できる移動式エアコンを導入すべきと思うがどうか。

- (2) 熱中症避難所の増設を

熱中症特別警戒アラートが発表された場合、立山町はみらいぶの中の3か所が避難場所に指定されている。しかし、そこへ行くまでが大変な地域もある。各地区の公民館などが避難場所として開放されれば利用しやすいと思われるがどうか。

7 営農型太陽光発電の推進について

南砺市で県内初の営農型太陽光発電事業が始まった。2023 年 9 月議会でも質問したが、希望する方がいれば支援するという事だった。農業をしながら発電できるという一挙両得の事業が立山町でもできたらと思うがどうか。

8 立山道パークについて

富山市からの立山観光の入り口になっている立山橋を渡るとすぐ立山道パークがある。

(1) 案内板の更新について

東西に 2 枚の看板があり、立山のガイドとして見る事ができるが、以前あった大川寺遊園地が書かれているほど古くなっていて、色が褪せている。新しく更新できないか。

(2) 駐車場除雪について

冬になると富山市からスキー客が通る道路になるが、その途中にこの立山道パークがある。

しかし、除雪されていないことから、休憩場所としても待ち合わせ場所としても、あるいは仕事の休憩場所としても役に立っていない。除雪オペレーターが少ないなど課題はあるが、利便性向上のために除雪の可能性を追求できないか。

(3) 立山橋の塗り替えについて

定期的に色の塗り替えは行われているが、現段階では、朱色が褪せ、錆が浮かんでいる状態である。橋の寿命を延ばすためにも、観光客からすれば立山町への入り口でもあるので早急に塗り替えをすべきではないか。

3 番 澤 井 峰 子 議員

1 防災減災対策について

昨年の豪雨、そして能登半島地震を受け、対策の追加、また建設中の（仮称）防災センター・児童館「アカリエ」の反映等を含む「立山町地域防災計画」が今年度改訂される。

(1) 自主防災組織毎の地区防災計画を進めていくことが今後さらに重要であると思うが、町の現況と今後の取り組みを伺う。

(2) 個別避難計画の進捗と、より実効性のあるものにしていくための町の見解を伺う。

(3) 合理的配慮のある防災情報の提供が義務化されている。音声が出るハザードマップ Uni(ユニ)-Voice(ボイス)を県が導入している。スマホで誰でも、災害時の情報取得に活用できるため、広く周知すべきと考える。

併せて、誰でも指定避難所にたどり着けるような標示が重要と考えるが町の見解を伺う。

(4) 災害業務での官民連携の取り組みが昨今進められている。特に罹災証明書の発行までの調査を保険会社など民間が自治体向けサービスとして提供している。町の見解を伺う。

(5) 避難所でのマイナンバーカードの有効活用をと思うが町の見解を伺う。

2 ヤングケアラー支援の充実について

今月5日、改正子ども・若者育成支援推進法が参議院本会議で可決・成立し、進路相談の体制整備や家事支援が法的に位置づけをされた。

改正法により「ヤングケアラー」の定義が明確化し、さらに30歳までを対象とした横断的な支援が必要とされる。

18歳以上であってもその影響が続くとされることから、町の今後の対策を伺う。

- (1) 学校としての対策を改めて伺う。
- (2) 進路やキャリアに関する専門支援員配置の考えは。
- (3) 家事支援などが気負うことなく活用できるような仕組みが必要ではないかと思うが。

3 熱中症対策について

この4月より熱中症特別警戒アラートが新たに加わった。今夏も今まで以上の暑さが予想されている。

- (1) 町として「みらいぶ」をクーリングシェルターとして解放するが、民間も含めた早めの周知や、のぼり旗等わかりやすい環境をと考える。町の対策を伺う。
- (2) 一人暮らしの高齢者や高齢者世帯に、自宅で使用できる熱中症計を町から配布し、エアコン等を有効に活用できるきっかけにしてはと考える。町の対策を伺う。

4 熊対策について

全国的な熊の被害があとを絶たない。今後も続く、熊対策について伺う。

- (1) 現場に向かう農林課職員の万全な安全装備の充実をお願いする。
- (2) 猟友会の現状と育成への取り組みを伺う。
- (3) 放任果樹等の伐採時期を果実が熟す前の段階で実施してはと考える。

5 こども誰でも通園制度について

昨年6月、異次元の少子化対策として「こども未来戦略方針」が打ち出され、「こども誰でも通園制度」が支援策の1つとして打ち出された。

この制度には、一時預かりとは違って、未就園児を就労に関わらず定期的に預けることを通し子育て中の孤立感の解消や子供の社会性を育めるメリットがある反面、保育士不足の悪化や施設側の課題などが考えられる。

- (1) 全国的に広がるこの通園制度への町の見解を伺う。
- (2) 建設中の「アカリエ」での未就園児を対象としたイベント等が計画されていると思うが、

どのような支援対策を実施するかを伺う。

4番 平井久秋 議員

1 富山地方鉄道について

富山地方鉄道が昨年度の決算で「営業損益」が5年連続の赤字となった。今年2月に各市町村の課長級会議が開かれ、地鉄側から説明があったとの報道がある。立山線があるわが町は最も長い路線を持つことから、今後の運営形態でどのような負担が生じるか、町民は注視している。夏ごろをめどに、地鉄と7市町村との2回目の協議が予定され、複数の案があるとのことだが、立山町にとってなくてはならない大動脈路線であり、今後の町の対応を伺う。

2 オンライン立会人の導入は

鳥取県智頭町でこの6月9日、全国初の取り組みでオンライン立会人による町長選と町議補選が行われる予定であったが、結果的に無投票となり実施されなかった。

しかし、智頭町のこの取り組みの背景には「立会人のなり手不足」があり、その結果、投票所の統廃合を余儀なくされている現状がある。

全国的に、ただでさえ投票率が低下している中、投票所が遠くになると、さらに拍車がかかる。智頭町の結果を見て、選択肢の一つにしたいという自治体も他県に存在する。立山町でも県選管に対し、要望を上げればと思うが、いかがか。

3 地域防災計画改訂について

災害の規模や種類は、年々増すばかりだ。

今回、地域防災計画の改訂が行われるとのことだが、今までの修正と違い、改訂となることからどのような内容になり、ポイントをどこに置くのかを伺う。

4 グリーンパーク吉峰の魅力発信について

昨年、コロナが第5類になり、観光業に以前の賑わいが戻りつつある。近隣自治体でもリニューアルしたキャンプ場があり、わが町の相当なライバルである。

(1) その中で埋もれずに、いかにグリーンパーク吉峰を周知し、魅力発信して、かけた予算に見合った効果が出せるのか、指定管理者であるモンベルの手腕に期待されるが、町として目標を持った数字を示すなど、関わりをどのようにしていくのか、伺う。

(2) 新オートキャンプ場は眺望確保のため、森林を皆伐した。今後、さらに伐採すると聞く。

①皆伐による森林の保水能力低下で土砂崩れなどが懸念される。対応策は考えているのか。

②伐採した跡地は、ほぼ民間地であるが裸地のままでは景観上もよくない。四季折々の低木

の花卉の植樹を提案するが、いかがか。

5 食品の値上げと給食費支援

昨年の食品価格の値上げにより、2023 年は総務省の家計調査でエンゲル係数が 40 年ぶりの高水準になった。

物価上昇に賃上げが追いつかず、節約しにくい食品の支出がこの結果になったと考える。

(1) そうした中で、小中学校の給食費はどの時期に決定されているのか。また、過去 5 年間の食材費と給食費の価格動向について伺う。

(2) 一時的な子育て支援も大切だ。だが、私は義務教育中の給食費支援は、より効果があると思う。

①補助事業が単年度で終わらず、継続されてこそ子育て支援につながると思うが、今年度の支援状況について伺う。

②この秋にも、さらに食品値上げが予想される。値上げがあった場合、給食費への対応はどうか。

5 番 松 倉 勝 実 議員

1 農業水稻栽培における問題点のうち高額農機具について

今農機具は、非常に高額である。水稻栽培における必要な機械は、20 ヘクタール以上の規模でトラクター、田植え機、管理機、コンバイン、播種器、草刈り機、動力防除機、乾燥機、粃摺り機、精米機、等々が必要になる。一千万を超えるものから、数百万のもの、数十万のもの等多種である。全部そろえると 4,000 万円は優に超える。これらの機材が、年一回の収穫で必要になる。

高価な機材を、年一回の収穫のために必要になり、実働は、10 日位で、休眠が、300 日以上の実情です。これでは、業者のみがもうかる構図である。

又、使用年数を経るごとに農機具の整備コストが農家の負担となり、重くのしかかる。300 万円以上の整備費が発生している。2 点伺う。

(1) 食料安全保障の観点と災害を防ぐ観点から、水稻栽培は欠かせない。小規模農家も認定農家にする流れもある。基準に満たない農家に対し、やる気があっても機械の購入ができず、あきらめ耕作放棄田となるのを防ぐため、条件なしにすべての農機具購入費用の 5 割以上の補助を創設して頂きたい、発信力の高い町長から国に進言して欲しい。

(2) 又、町からは、農機具整備コストもかかっているのに、補助を頂きたい。

以上、町長の見解を伺う。

2 少子化対策について

少子化は、待ったなし、年々加速している。やれることは何でもやってほしい。そこで、空き家に着目し、以下の2点を提案する。

- (1) 古民家修復プロジェクトを立ち上げ、若い人たちに立山町に行きたいと思わせる古民家を創り上げる。
 - (2) 空き家を年5棟ぐらいずつ、修復を行う。無償で若い夫婦、移住者、家族連れに提供する。
- 以上、町長の見解を伺う。

3 小学校統合について

統合について伺います。立山、立山中央、立山北部への3校に統合との推測があります。校舎の新築もこの3校が新築されております。4点伺う。

- (1) 過去に3校への統合との経緯の有無。
 - (2) 何故、3校だけ新築したのか。
 - (3) もし、仮に新聞報道どおり4校廃校にした時の校舎の使い方はどうするのか。
 - (4) 現在の当該小学校父兄への説明状況について伺う。
- 以上、教育長の見解を伺う。

4 デマンド交通について

少子高齢化の中、地域の足としての町営バスは欠かせない。運営主体の地鉄一部撤退という流れで、デマンド化等含め検討されとのことで2点伺う。

- (1) デマンド化等今後のあり方をどう進めるのかを問う。
- (2) ライドシェアについて問う。政府も本腰を入れている。実際に実施に向けている自治体もあるが、当町は、どの様に考えているか問う。

5 自治公民館の脱炭素省エネルギー施設設置補助事業について

各自治体で対応が違うのはどういうことか。富山市は、2/3補助その他自治体も1/2にしている。立山町は、1/3である。是非とも1/2以上の補助にして欲しい。

6 番 広 島 秀 一 議員

1 下段地区の不法投棄問題

私が住んでいる下段地区では、不法投棄などの問題があり、警察などが一生懸命、捜査して富山検察庁にあげた事件が不起訴・略式起訴・罰金となった。

しかし、その後も田植え前の時期に土砂を積み上げて不法投棄ゴミを隠しているのではないかと

思われる。富山市ではこの業者に解体現場や不法投棄場所できちんと行政指導していると聞く。現場では、解体工事の許可書を提示させたり、アスベストの証明書の提出、運搬トラックの産業廃棄物運搬車両の証明を提示させ、一時仮置きにしても「許認可」証明の提示など、あの手この手で不法投棄を封じこめている。

町では、県と一緒に指導するという方針で、機敏に対応できないもどかしさもあるだろうが、しっかりと行政指導をしてほしい。現状を問う。

2 立山まつりの実施方法を再考すべきでないか

今年で 66 回を数えるが町商工業の発展と町中活性化を目的として、昭和 34 年頃から開催されてきた。しかし、今年は実行委員会も開かれないまま、いきなり踊り手の参加人数の問い合わせが来たと聞く。立山小唄・町流しは、地域が主体となって、婦人会が多くの踊り手を輩出して、北から、南から、西からと町中を席卷してきたもの。

近年は、踊り手が少ないということで町職員の協力も得て、確保に努力されているが、本来は町民・一般人で盛り上げるもののはず。きらびやかなステージやケバケバ飾りはいらぬ。もっと、町民の手で手作りのまつりを創作してほしいと望んでいます。一部の小学校では指導していると聞くが、もっと町民に、小・中学生や高校生に踊りを教え、普及し、そういうところにお金を掛けるべきものかと考えるがどうか。町民が作り出すことで、商店街の活性化が生まれるはずだと思うが、町内にいないからと安易に専門業者に委託するのは如何なものか。

実行委員会を開いて、地道に町民の手で作り上げることを模索すべき、再考を。

3 五百石駅前のホテル誘致はどんな進行か、進捗状況を問う

町長は 3 月議会で話し合いを続けていると発言されていたが、どうなっているか。

駅前もそうだが、飲食店が少ない。立山グルメや B 級グルメで有名な店も少ない。町中はシャッター通りだ。

これでは、ホテル進出も難しいと言わざるを得ない。飲食店を増やすことも必要であり、泊食分離も有意義な方法だ。店舗が多くないとホテルの進出も難しい。進行状況と併せて考えを問う。

7 番 髪 口 清 隆 議員

1 公園整備について

富立大橋の 4 車線化の影響もあるのか、利田地区内では住宅団地の開発が進んでいる。

新しい団地には若い世代の入居が多く、今後子どもたちが増えると同時に、高齢者も増えると容易に予想される。

交通弱者の子どもたちが、放課後自分たちでのびのびと遊べ、高齢者が日中のんびり集える場所

があればとの声が多く聞かれる。利田中心部に誰もが集える田んぼ1枚分（3,000㎡）ほどの公園整備はできないか。

2 主権者教育について

主権者教育とは、「国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者を育成していくこと」とされている

選挙権年齢及び成年年齢の引下げにより、主権者として求められる力を育成する教育がこれまで以上に求められていることから、文部科学省では、小・中学校向け主権者教育指導資料『主権者として求められる力』を子供たちに育むために」を作成している。

選挙に行ってもらい、低い投票率を上げるためだけに行う教育ではないが、政治に関心を持ってもらうには、小中学校からの教育も必要だと思われる。

立山町教育委員会として、今までの関わりと、今後どのように向き合っていくのか。

3 配食サービスについて

立山町では様々な在宅福祉サービスがある。

その中に配食サービスの補助があり、※65歳以上の一人暮らしの高齢者※65歳以上の高齢者のみの世帯※身体障害者であり、心身の障害、傷病等の理由により調理が困難な方に行われている。

(1) 毎日の事なので本人や家族にとっては負担軽減につながる。現在の利用状況は。

(2) 現在昼食のみのサービスとの事で、夕食などでも利用できれば、との声を聞くがどうか。

4 公金管理について

立山町の公金管理の基本的な考えと、会計管理者としての心構えは。

8番 堀田 努 議員

1 消える自治体について

先日消える自治体が全国的にリストアップされた。立山町はそこにはなかったが、境界線に近いと見受けられた。前回の調査から新たにリストアップされた自治体もあれば、前回リストアップされていたが、今回は除外された自治体もあった。我が町のこの件に関する取り組みを伺う。

2 震災時の避難について

1月1日の能登半島地震により、立山町に町外の多くの人たちが避難されてきた。津波からの避

難だったが、富山県民にとっては現代では初めての大地震による被災であったことから、町内の標高の高いスペースに集中した。町内で一番低い標高の地区は泉地区で、12.7mである。いつ起こるかわからない大地震で、大津波が富山平野を襲うとしたら、どれくらいの標高まで到達するだろうか。

- (1) そこで我々立山町民の意識として、立山町の標高また、自分の住んでいる地区の標高を、しっかりと把握し周知徹底する必要があると思うが、見解を問う。
- (2) 避難者に標高が分かる標識が道路にあれば、不必要な避難が回避されるのではと思うが、見解を問う。
- (3) 河川をさかのぼってくる津波はどのように想定されているかを問う。

3 飲食業開業希望者への手引き

3月議会でも質問し、返答をいただいたが、五百石地区中心部の活性化に一番のキーポイントとなる、新たな飲食店開業について、再度質問します。飲食店を開業したいと志している人は現実に複数人いる。開業への準備において、途中で難局に直面して頓挫してしまうパターンが多く、道が閉ざされていると聞く。そこで、商工会とタイアップし、起業を志す人に開店に向けてのガイドを、わかりやすくマニュアル化することが肝要と思うが、これについて再度問う。

4 学校における熱中症対策

今年の夏も昨年同様酷暑となる予報が出た。

- (1) 学校行事、特に屋外行事は酷暑時を回避する日時の変更を視野に入れるべきと思うが見解を問う。
- (2) 熱中症特別警戒アラートの運用が始まるが学校の授業、行事にどのように反映されるかを問う。